

### 「アクティブ・ラーニング」教員ミニ研修会を実施。

5月27日（金）の放課後、「アクティブ・ラーニング」に関する教員ミニ研修会を実施しました。今回の講師は、私（校長）でした。私は、昨年4月より、今後の高校教育改革について、3つのテーマで研究を進めています。それは、「アクティブ・ラーニング」「2つの新テスト」「次期学習指導要領」の3つです。特に、「アクティブ・ラーニング（AL）」については、東京開催の多くのセミナーに参加したり、先進校を見学するなどして研鑽を深め、最近では、各所でアウトプットの機会もいただくようになりました。私は、多くのAL型授業を見ていて、現在次のことを感じています。

- ① AL型授業が形だけになってはいないか。→目的・目標は何なのかを考えて授業設計する。
- ② アクティブラーナー（能動的学習者）の育成という目的に向かっているか。
- ③ ALか講義かという二項対立になっていないか。→講義・インプットは大切→「AL指数」
- ④ ペアワークやグループ学習だけで学力は向上するのか。→「R80」の提案

私が、本年3月に考案した「AL指数」は、上記③解決のための指標です（ドリーム第31号参照）。私が今考えている高校ALの理想は「AL20」です。また、上記④に対応するために、この5月に考案したのが「R80（読みはアールエイティーン）」です。「R80」については、下の解説をご覧ください。様式のプロトタイプは下の写真です。

- 1 「R80」とは？ ……読みは「アールエイティーン」です。
  - 2 Rは「リフレクション（振り返り）」と「リストラクチャー（再構築）」のRです。
  - 3 80は、自分で80字以内の文章を書くという意味の80です。
  - 4 基本ルール①……ALの最後に、リフレクション（振り返り）として、ペアやグループで話し合ったことなどを、リストラクチャー（再構築）して、80字以内で書きます。
  - 5 基本ルール②……必ず2文（2センテンス）で書き、その2文を接続詞で結びます。
  - 6 目的……思考力・表現力・論理力を育成します。→それが学力向上につながります。
  - 7 なぜ2文80字以内か？……1文は50字前後が理想とされています（簡潔に明確に書く）。
- ★「新テスト」における短文記述式問題の文字数が80字以内です。

私は、ALは「学力向上」が伴うことによって、さらに広がっていくと思っています。そのために考案したのが「R80」です。確かに少しハードルが高いかもしれませんが、ALを「セカンドステージ」に引き上げるアイテムだと考えています。多くの先生方の工夫・改善を経ながら「R80」が全国の教室に広がっていくことを期待しています。

**R80 (アールエイティーン)** <プロトタイプ20021>

年組 国 店名

授業  
タイトル

20  
40  
60  
80

授業  
内容

20  
40  
60  
80  
100

FREE1

FREE2

**R80に関する解説**

R80の読み方は「アールエイティーン」です。Rは「リフレクション(reflection)」と「リストラクチャー(restructure)」のRです。80は、自分で80字以内の文章を書くという意味の80です。

**基本事項**

①アクティブ・ラーニング(AL)の最後に、リフレクション(振り返り)として、ペアやグループで話し合ったことなどを、リストラクチャー(再構築)して、80字以内で書きます。

**基本ルール**

①必ず2文(2センテンス)で書き、2文を接続詞で結びます。

②目的……思考力・表現力・論理力を育成します。→それが学力向上につながります。

③なぜ2文80字以内か？……1文は50字前後が理想とされています(簡潔に明確に書く)。

●黒字(先生) ●赤字(生徒) ●緑字(対比) ●赤字(つまり、すなわち)

●黒字(教師) ●赤字(生徒) ●緑字(対比) ●赤字(つまり、すなわち)

講義・教師による「アクティブ・ラーニング」の授業(2014)

「アクティブ・ラーニング」イメージ2016  
アクティブラーナー(能動的学習者)の育成

↑  
アウトプット  
↑  
協働  
↑  
リスペクト

「アクティブ・ラーニング」まとめ

- 1 ALが授業をかえる
- 2 ALが生徒をかえる
- 3 そして、ALで学力向上
- 4 さらに、ALで先生方がかわる